

# SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 24年 1月  
(第1～4週)

発行年月日：平成24年(2012年)2月29日  
発行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年*1		感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年*1	
		1月		1～12月				1月		1～12月	
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	0	0	178
	南米出血熱	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	9
	ペスト	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	1		ブルセラ症	0	0	0	2
	結核	21	1,518	337	30,810		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	6
	コレラ	0	1	0	12		マラリア	0	2	0	76
	細菌性赤痢	0	12	5	296		野兔病	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	51	71	3,900		ライム病	0	0	0	8
	腸チフス	0	0	0	22		リッサウイルス感染症	0	0	0	0
四類	バラチフス	0	1	0	22	五類	リフトバレー熱	0	0	0	0
	E型肝炎	0	12	0	54		類鼻疽	0	0	0	3
	ウエストナイル熱	0	0	0	0		レジオネラ症	0	45	12	804
	A型肝炎	0	7	0	176		レプトスピラ症	0	1	0	26
	エキノコックス症	0	1	0	15		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0		アメーバ赤痢	3	57	2	803
	オウム病	0	0	0	13		ウイルス性肝炎	0	10	1	241
	オムスク出血熱	0	0	0	0		急性脳炎	0	38	1	249
	回帰熱	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	1	0	8
	キャサナル森林病	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	9	2	130
	Q熱	0	0	0	1		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	22	2	192
	狂犬病	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	0	90	6	1,478
	コクシジオイデス症	0	0	0	2		ジアルジア症	0	1	1	67
	サル痘	0	0	0	0		髄膜炎 菌性髄膜炎	0	2	0	12
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	1
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0		梅毒	0	44	6	817
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0		破傷風	0	8	1	111
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0
	チクングニヤ熱(*)	0	0	0	10		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	4	0	68
	つつが虫病	1	46	1	438		風しん	1	19	2	369
	デング熱	0	12	1	104		麻しん	1	25	1	434
東部ウマ脳炎	0	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	0	0	72		
(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。ー：未集計						動物の 感染症	細菌性赤痢のサル	0	1	9	37
*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)							エキノコックス症の犬	0	0	0	0

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。一：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

### 滋賀県における全数報告感染症の概要 (1月)

＜結核＞ 21名  
性別：男性 9名、女性 12名  
類型：患者 13名  
無症状病原体保有者 8名  
病型：肺結核 9名  
その他の結核 4名  
無症状病原体保有者 8名

＜つつが虫病＞ 女性 66歳  
推定感染経路は動物・蚊・昆虫等の  
感染で、推定感染地域は日本国内で  
す。

＜アメーバ赤痢＞  
男性 46歳、49歳、女性 26歳  
推定感染経路は経口感染 1名およ  
び不明 2名で、推定感染地域はインド  
1名および日本国内 2名です。また、病  
型は腸管アメーバ症 2名および腸管外  
アメーバ症 1名です。

＜風しん＞ 男性 35歳  
推定感染経路は不明で、推定感染  
地域は日本国内です。また、ワクチン  
の接種歴は2回とも無しです。

＜麻しん＞ 男性 11歳  
推定感染経路は不明で、推定感染  
地域は日本国内です。また、ワクチン  
の接種歴は2回とも有りです。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 1月の概要

#### <インフルエンザ>

先月より大幅に増加し、先月の約3.8倍増となっていました。第3週(1/16～1/22)には、大津市、東近江、彦根および長浜の定点当たり患者数が、警報開始基準値である30.00を超えたため、1月24日に、県内全域にインフルエンザ警報が発令されました。保健所管内別では、特に大津市および東近江で多くなっていました。

また、年齢群別では、0～4歳、5～9歳および10～14歳で全体に占める割合が多くなっていましたが、60歳以上における発生割合も例年より多くなっていました。

#### <小児科定点疾患>

下記グラフ(疾患別増加率)に示すとおり、先月より増加した疾患は感染性胃腸炎のみで、他の疾患は減少していました。また、各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。

A群溶レン菌咽頭炎——高島保健所管内で、第3～4週(1/16～1/29)に警報発生基準値(警報開始基準値8.00、警報終息基準値4.00)を超えていました。

感染性胃腸炎——彦根保健所管内で、第2～3週(1/9～1/22)に警報発生基準値(警報開始基準値20.00、警報終息基準値12.00)を超えていました。

水痘——草津保健所管内で、第1週(1/2～1/8)に、注意報発生基準値(4.00)を超えていました。

手足口病——草津保健所管内では、平成23年第49～平成24年第1週(12/5～1/8)に警報発生基準値(警報開始基準値5.00、警報終息基準値2.00)を超えていましたが、第2週(1/9～1/15)に警報終息基準値未満となりました。

また、高島保健所管内では、第4週(1/23～1/29)に警報開始基準値を超えていました。

流行性耳下腺炎——東近江保健所管内で、第2週に警報開始基準値(6.00)を超えましたが、次週には警報終息基準値未満(2.00)となりました。その後、再び(おたふくかぜ)第4週には、注意報発生基準値(3.00)を超えました。

#### <眼科定点疾患><基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少していますが、大津市保健所管内でやや多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患である無菌性髄膜炎は東近江保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は先月より減少し、東近江保健所管内からのみの報告でした。また、細菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <インフルエンザ(入院)>

第1～4週に、インフルエンザ入院患者37名の届出がありました。性別では、男性23名、女性14名でした。

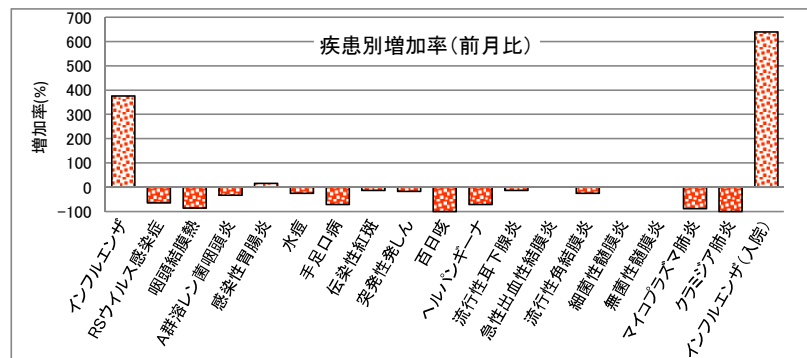
年齢別では、1歳未満6名、1～4歳11名、5～9歳4名、10～14歳2名、30～39歳1名、40～49歳1名、50～59歳2名、60～69歳2名、70～79歳3名および80歳以上5名でした。

また、全国における第1～4週の入院患者数は2,364名でした。

#### <疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

定点把握対象疾患における  
前月(平成23年12月)との比較



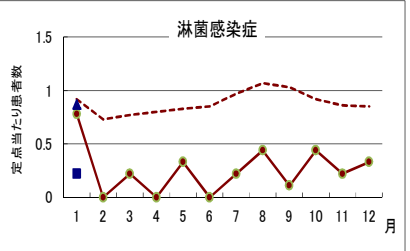
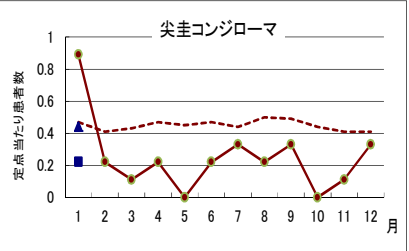
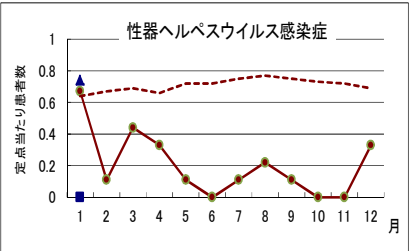
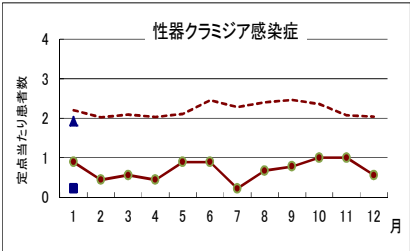
#### <各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

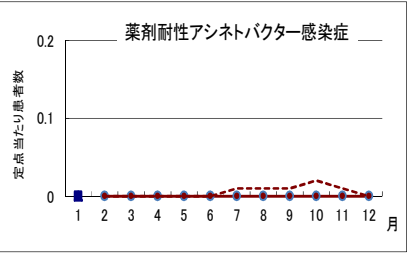
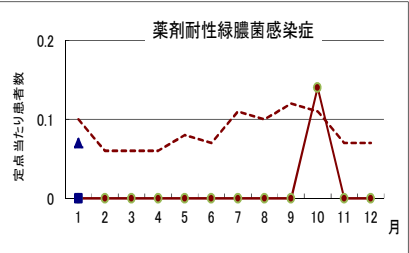
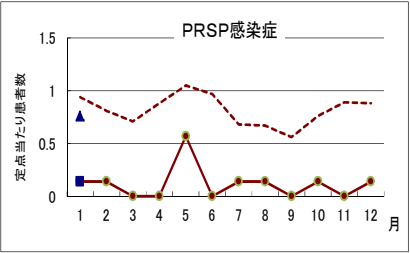
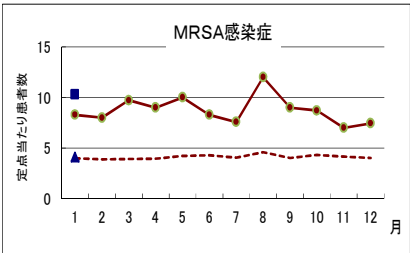
全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 24年1月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2												2
	定点当たり患者数	0.22												0.22
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0												0
	定点当たり患者数	0												0
尖圭コンジローマ	報告数	2												2
	定点当たり患者数	0.22												0.22
淋菌感染症	報告数	2												2
	定点当たり患者数	0.22												0.22
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72												72
	定点当たり患者数	10.29												10.29
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1												1
	定点当たり患者数	0.14												0.14
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0												0
	定点当たり患者数	0												0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症	報告数	0												0
	定点当たり患者数	0												0



H23 滋賀  
全国



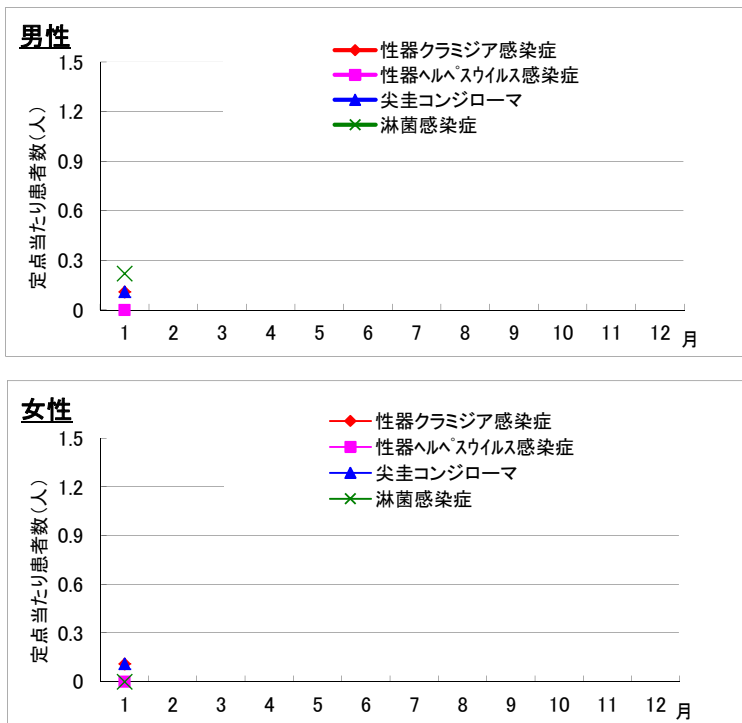
H24 滋賀  
全国

\* 平成24年1月のデータは、全国▲、滋賀県■として表示しています。

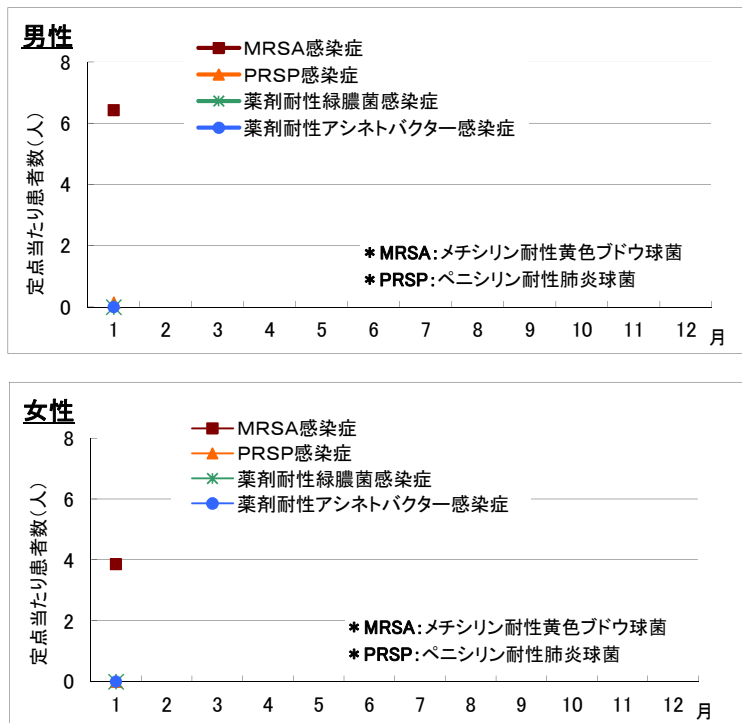
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月(平成23年12月)と比較すると、大部分の疾患で減少し、増加した疾患はMRSA感染症のみです。PRSP感染症は横ばいです。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

**性感染症定点における疾患別発生状況**  
(H24.1)



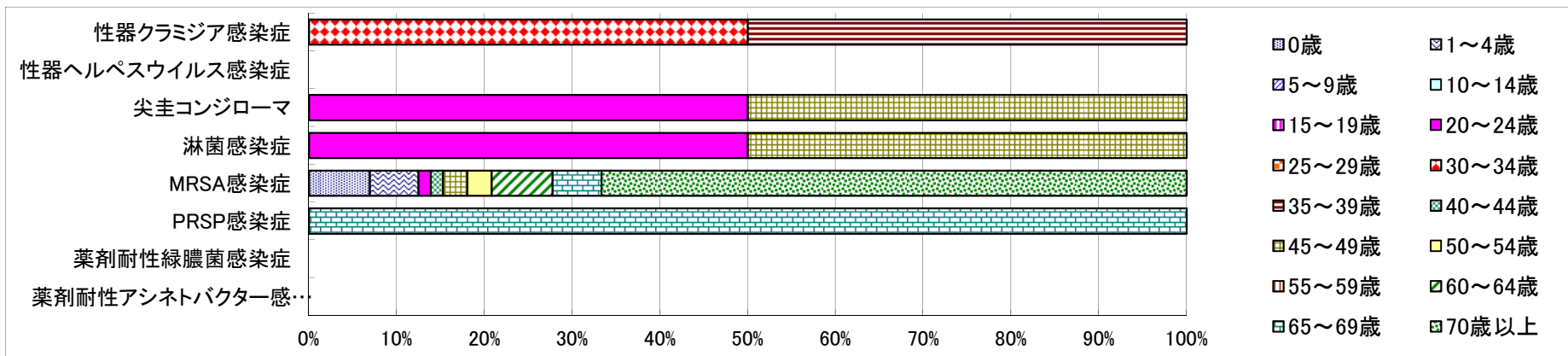
## 基幹定点における疾患別発生状況 (H24.1)



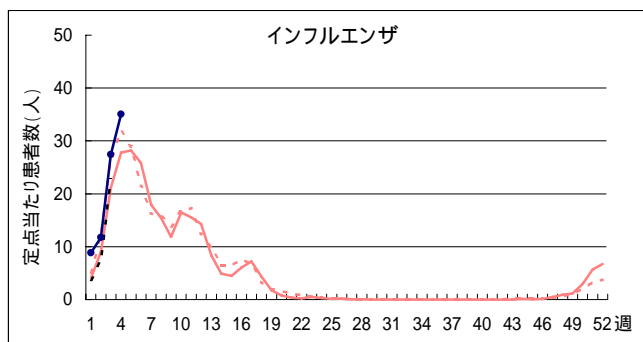
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。大部分の疾患では、男性および女性における発生状況に大きな違いは見られませんが、淋菌感染症およびMRSA感染症では、男性からの報告が大幅に多くなっています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性感染症定点疾患では、20～24歳、45～49歳からの報告がやや多くなっています。

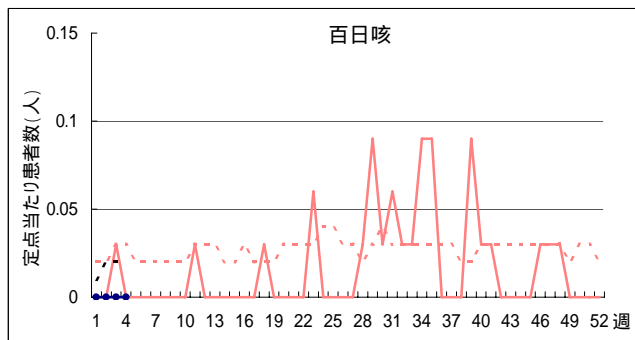
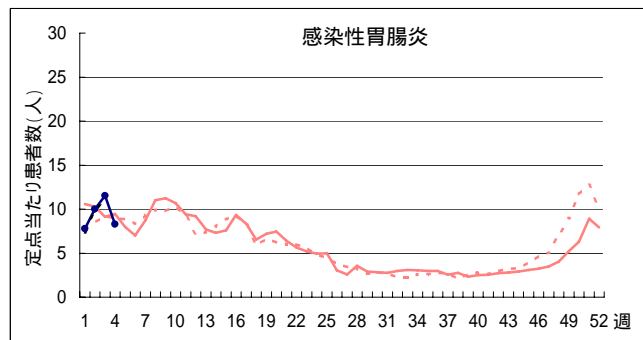
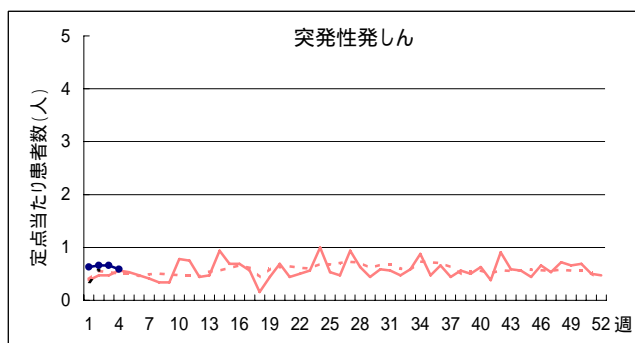
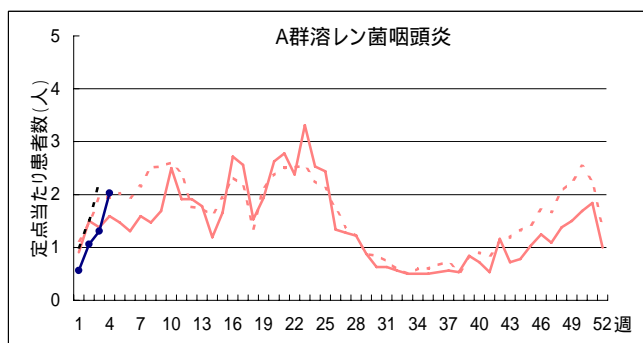
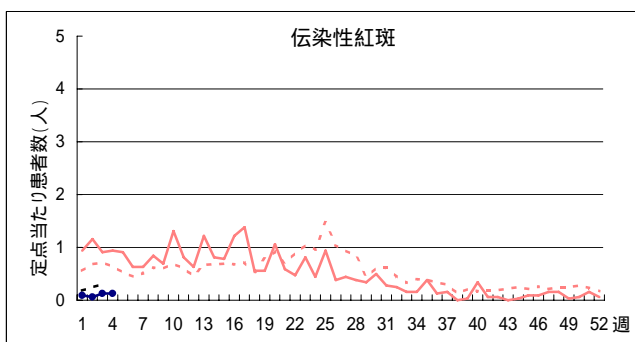
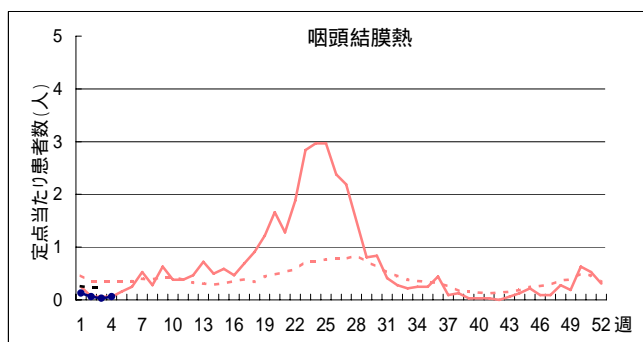
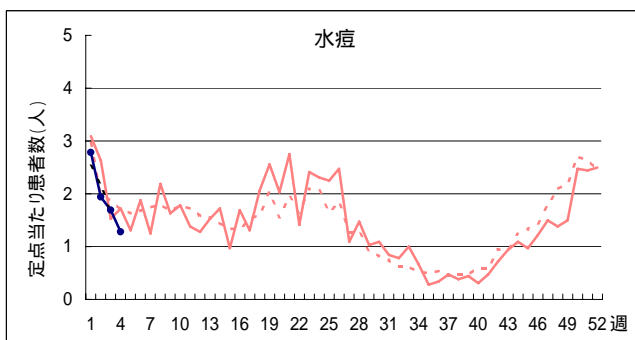
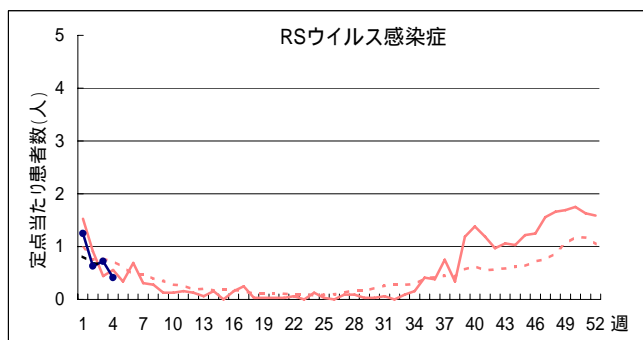
**疾患別・年齢別発生状況(H24.1)**



# 疾病別定点当たり患者数(平成24年第4週、H24.1.2～H24.1.29)



H23 { 滋賀 ————  
 全国 .....  
 H24 { 滋賀 —●—●—  
 全国 .....



# 疾病別定点当たり患者数 (平成24年第4週、H24.1.2～H24.1.29)

H23 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
H24 〔 滋賀 ●●●● 全国 ..... 〕

